



バリアフリームーブメント

Vol.41

「いざ」じゃないとき知る知識！
「いざ」というとき引き出す知識！

バリアフリーな社会を生きるため、
必要なことを先取りしよう！

今回のテーマは
**調味料入れに「工夫」
小さな配慮で
不便さを解消！**

既存の製品をより多くの人が使いやすいようにしてあげるモノ、今まで使いにくかったものを使いやすくするためのモノ等、これらからどんな増えてくるバリアフリー化された製品や情報を紹介しているこのコーナー。
今回は、「調味料入れの工夫」を紹介する。
(森川 美和)



目の見える人、見えない人にかかわらず、表示が分かりにくいという不便さは同じである。
小さなことで普段は気が付かないことも知れないが、より多くの人が使いやすいかなるよう工夫する同社の考え方は、今後のモノ作りに欠かせないものであると思う。
旭創業の右近雅晴さんは、「調味料容器を我々社では「ランチャーム」と名付けました。これはランチャーム+チャージングという意味で、多くの方に楽しいランチャームを提供したいとの思いが込められています。」
今後とも皆様に喜んでいただけるように、バリアフリー商品の開発に取り組みで参りたいと思っております」と話した。

〔しょうゆ、ソース容器〕のお問い合わせ先
(株)旭創業
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉1-4-21
TEL: 06-6695-3751/FAX: 06-6695-3759
http://www.asahi-so.co.jp/



「小さなポリ容器」に
「さわってわかる印！」

お弁当についている調味料の小さなポリ容器。
コンビニエンスストアや町の弁当屋、日々のお弁当、行楽シーズンを子ども達の遠足など、小さな調味料容器は、とても便利である。
このお弁当用調味料の小さな容器が誕生したのは、今から50年前(1956年)のことで、(株)旭創業(大阪・住吉区)が日本で最初に開発・販売したものだ。
ポリ容器といえば、見慣れたさかなの形を始め、ピン、ひょうたん、ふたの形などさまざまな用途に応じて使い分けられてきた。一回使い切りなので、衛生的で安心です。
しかしこの容器、中身が何であるか簡単に識別できれば問題はないが、市販されているお弁当についていた場合、中身が何かが分かりにくい。「これはしょうゆ？ ソース？」と迷った挙句、取りあえず開封してニオイを嗅いでから、中身を確認して使う場合も多いのではないだろうか。そんな利用者の不便さを少しでも和らげようと、同社が開発したポリ容器は、見てもさわっても分かる浮き出し文字(点字)で写真1)がついている。
また同社の点字シルバートイン(写真2)には、点字、日本語英語の併用、開封しやすい開け口を採用し、それらの表示も分かりやすいように工夫している。



(写真右) プッシュワンしょう油差LM (型番: PU-2)
サイズ: φ61×111H(mm) 容量: 約47ml
メーカー小売価格: 800円(税込み価格: 840円)
カラー: アイボリー、クリアレッド、クリアブルー
(写真左) プッシュワンしょう油差LS (型番: PU-1)
サイズ: φ61×95H(mm) 容量: 約40ml
メーカー小売価格: 700円(税込み価格: 735円)
カラー: アイボリー、クリアレッド、クリアブルー
〔「プッシュワンしょう油差」〕のお問い合わせ先
(株)台和
〒110-8531 東京都台東区上野5-6-10
URL: http://www.daiwa-grp.co.jp/

「一回押すだけ簡単操作！」
「プッシュワンしょう油差」

お寿司や漬物などに、直接しょう油をつけて食べようと、思いしょう油差しを傾けると、思った以上に出てしまい、食べ物がしょう油漬けになった経験はないだろうか。
自宅や行きつけの店など、そのしょう油差しの使い方の要領が分かっていればよいが、使い勝手の分からないものだと、恐る恐るしょう油差しを傾けてしまつとも少くない。
また、目の不自由な人や手の自由が利きにくい人にとつても、一度にどの位の量が出たのかわからなかったり、操作がうまくいかず多量に出てしまつたりするのをまぎらわす、そんな不便さを解消してくれる製品がある。
(株)台和(東京・台東区)が開発する「プッシュワンしょう油差し」(写真3)だ。
「プッシュワン」は、計量機能付きのしょう油差しで、1回ボタンを押すと約0.4cc分出るように設計されている。
押しかけんで微量調整ができるので、好みによって量を調整できるのもうれしい。
また「プッシュワン」は、うっかり手が滑つたり当たったりして倒しても、中身がこぼれにくいので安心して使える。
同社の日用品営業部長千代丸孝弘さんは、「弊社では、お年寄りや身体の不自由な方へのやさしさと使いやすさを考えて開発したソフトバリアフリー商品「プッシュワン」のシリーズを商品化しています。」
また、誰でも使いやすい商品を目標として商品開発に力を入れていきます」と話した。

